

令和4年度 全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果について

令和4年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査が全国の小・中学校で行われ、調査結果が公表されました。これを受け、スポーツ庁は、令和元年度調査から連続して小・中学校の男女ともに体力レベルが低下しており、低下の要因として、総運動時間の不足、肥満児童生徒の増加、生活習慣の変化（朝食欠食、睡眠不足、テレビ・スマートフォン・ゲーム機等の映像の視聴時間の増加など）、新型コロナウイルス感染症の影響などが考えられるとの見解を発表しました。



北海道においては、小・中学校の男女全てで「体力合計点」が全国平均に届かず、中学校で差が拡大しているものの、小学校では改善しているとの調査結果が公表されました。

和寒町の児童生徒の実技調査の結果については、「握力」と「立ち幅跳び」において小・中学校男女ともに全国平均を上回っています。また、「反復横跳び」と「ボール投げ」においては、小学校5年生男女・中学校2年生男女の4区分のうち3つの区分で全国平均を上回りました。「体力合計点」においても、小・中学校の男子が全国平均を上回っており、女子も全国平均とほぼ同等の結果となっています。一方、「シャトルラン」では、小・中学校男女ともに全国平均を下回っています。

(*緑ゴシック体の数字は全国平均以上の種目)

		種目	握力	上位起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ボール投げ	体力合計点
和 小 5 年 男 子	R 3	全国 平均	16.2	18.9	33.5	40.4	46.8	9.5	151.4	20.6	52.5
		和寒小平均	18.5	20.6	33.6	37.5	47	9.5	148.8	25.6	53.5
	R 4	全国 平均	16.1	18.9	33.8	40.4	45.9	9.5	150.8	20.3	52.3
		和寒小平均	18.3	18.1	35.5	42.7	35.7	10.1	156.9	21.9	53
和 小 5 年 女 子	R 3	全国 平均	16.1	18.1	37.9	38.7	38.2	9.6	145.2	13.3	54.6
		和寒小平均	17.1	20.1	42.3	38.6	34.3	9.9	152.3	17.3	57.6
	R 4	全国 平均	16.1	18	38.2	38.7	37	9.7	144.6	13.2	54.3
		和寒小平均	16.4	17.6	39.6	42.6	34.6	10.2	148.6	13.9	54

		種目	握力	上位起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ボール投げ	体力合計点
和 中 2 年 男 子	R 3	全国 平均	28.8	26	43.7	51.2	79.9	8	196.4	20.3	41.2
		和寒中平均	30.5	27.6	50.6	53.1	69.5	8.2	198.3	22.1	50
	R 4	全国 平均	29	25.7	43.9	51.1	78.1	8.1	196.9	20.3	41
		和寒中平均	33.1	27.1	41	52.1	75.8	7.4	219.2	21.7	45
和 中 2 年 女 子	R 3	全国 平均	23.4	22.3	46.2	46.3	54.2	8.9	168.2	12.7	48.6
		和寒中平均	25.4	19.6	46	45.3	48.9	9.2	174.1	15.7	48.7
	R 4	全国 平均	23.1	21.7	46.1	45.8	51.6	9	167	12.5	47.4
		和寒中平均	23.5	21.9	41.4	45.4	45.6	8.8	171.8	11.9	46

運動習慣、生活習慣等のアンケート調査では、毎日の睡眠時間を問う設問に「8時間以上睡眠している」と回答した児童生徒が、全国平均を大きく上回っていました。また、「体育の授業でタブレットなどのICT機器を活用している」と回答した児童生徒の割合も、全国平均を大きく上回りました。

反面、「平日に学習以外でテレビ、DVD、ゲーム、スマホ、PC等を3時間以上利用している」と回答した児童生徒が、小学校で5割、中学校で6割以上で、全国平均を上回っており、昨年度に続いて、メディアの利用時間が長いという傾向が見られました。

これらの結果を受け、和寒小学校・和寒中学校では、児童生徒の体力向上や生活習慣改善へ向けた取組を進めていきます。